
パラレルワールド

ぽにい

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

パラレルワールド

【Nコード】

N45840

【作者名】

ぼにぃ

【あらすじ】

地球の下には秘匿された地下都市がある。

そこには『ゲート』と呼ばれるものがいくつもあり

パラレルワールド（並行世界）と繋がっている。

そんな地下都市にはいくつものパラレルワールドから様々な種族や生き物がやってくる。

プロローグ

男が森を全力疾走していた
黒い生地のスーツのようなものを着て
手にはハンドガンが握られている。
額からは滝のように汗が流れおち
顔には憔悴した表情をしていた。

「はあはあはあ、なんだよあれ！」

ストレスからか唇を強く噛み
端から血が流れている。

男は数人の仲間とともに少し前まで年端にもいかない少年を追いかけていた。

最初は楽な依頼だと思い、まともな準備さえせずに計画に移したが、

仲間と共に少年を囲み麻袋でつかまえようとした時に異変が起こった。

少年が消えたのだ。

すると端のほうで見ていた男の首が千切れとんだ。

その横には姿を消したはずの少年が、蹴りを放ったかのような格好で立っているではないか、

仲間の突然の死に反応できたのは軍隊にも所属したことのあるリーダー格の男だけだった。

すぐさま持っていたハンドガンを構え、少年に発砲したのだがそれは気を引いただけになってしまった、少年は首を曲げ弾丸をよけたのだ。

「おいおい、そりゃないだろ」

その言葉を最後にリーダー格の男は首を失った。

弾丸をよけ、首が千切れ飛ぶという尋常ならざる光景と、

リーダー格のものを失ったことにより統制は崩れ、男たちは逃げ惑った。

そして数刻立たないうちに逃げる者は男一人になってしまったのだった。

「はあはあ、やっと森の外か…」

道路沿いの街灯の横に立ち、油断したのか警戒を解いてしまった。そのことを後悔する暇すらなかった。

「生き残れ…」

言い終わる前には首がなくなっていた。

首がない死体の横に少年は立った。

虚ろでなにを見ているのか分からない目をして死体を見ている。

すると後ろが荷台になっている白い軽トラックが道路の向こうから走ってきた。

最初は結構なスピードで走ってきていたが、道路ぞいにぼつんと立たずむ少年を不審に思ったのか軽トラックは少年の前で止まった。

エンジンを切らずに車から出てきたのは老齢の男性だった。顔のしわの数に似合わないほどにピンとした背筋としっかりとした足取りが年齢をわからなくさせている。

「小僧そんな恰好でどうした。」

どっしりとした腹に響く声だった。

少年はその声をかけられた瞬間から行動を開始していた。常人には消えたように感じるスピードで老人に肉薄する。頭に狙いをつけ蹴りを放ったが手ごたえがない。

すると後ろから声が出た。

「いきなりなんじゃ、物騒ではないか」

少年はすぐさま後ろの声が出た所に蹴りを放つ。しかしこれも手ごたえがない。

すると今度は横合いから

「なんじゃといつとろうっ！」

声が出たときには首筋に大きな衝撃を受け意識を失っていた。

「何だったんじや」

老人は一人つぶやいた。

首のない死体とおおむけに倒れている少年を見て明らかに面倒事だろつ。

「はあー。しかたがないのう。」

老人は血だらけの姿で倒れている少年を抱えあげ、車に乗り込むのだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4584o/>

パラレルワールド

2010年10月29日18時48分発行